

導入促進基本計画

1 先端設備等の導入の促進の目標

(1) 地域の人口構造、産業構造及び中小企業者の実態等

鎌ヶ谷市は、千葉県の北西部に位置し、都心から25km圏内にあり高い交通利便性や安い地価等から、予てより都心のベッドタウンとしての役割を担ってきた。

市の総人口は、令和7年2月1日時点で109,670人であり、千葉県内では中規模程度の自治体である。近年においては、鉄道4線の乗換駅のある新鎌ヶ谷地区の開発などにより、人口は微増の傾向にあったが、「鎌ヶ谷市総合基本計画」では、令和7年以降、人口が減少傾向と予測されていることから、定住人口の増加が喫緊の課題となっている。

また、市内の産業構造としては、市内事業所の多くは中小企業・小規模企業者で第三次産業の割合が高くなっており、市の位置が都心と成田空港の中間地点に位置していることから、今後、広域幹線道路である北千葉道路の整備等が進むことで、企業の立地が促進される可能性を有している。

なお、生産性（付加価値額）の観点から市の産業構造を分析すると、製造品出荷額をはじめとする生産性（付加価値額）は、大企業を有する自治体と比較して、その格差は拡大傾向にある。

産業別の生産性（付加価値額）については、「卸売業、小売業」「運輸業、郵便業」「医療、福祉」「建設業」「製造業」の順で高くなっており、第三次産業の付加価値額が高くなっている。

多くの中小企業・小規模企業者において、少子高齢化による人手不足や原材料価格の高騰などにより、依然として厳しい経済環境にあり、このような状況の中で、市の固定資産税額は、令和3年度以降の3年間では横ばい傾向となっている。

(2) 目標

中小企業等経営強化法第49条第1項の規定に基づく導入促進基本計画を策定し、中小企業・小規模企業者の先端設備等の導入を促し、第二次産業をはじめとする中小企業・小規模企業者の製造品出荷額の拡大を目指す。

これを実現するため、計画期間中に年間15件の先端設備等導入計画の認定を目標とする。

(3) 労働生産性に関する目標

先端設備等導入計画を認定した中小企業・小規模企業者の労働生産性（中小企業等の経営強化に関する基本方針に定めるものをいう。）が年平均3%以上向上することを目標とする。

2 先端設備等の種類

鎌ケ谷市では、平成30年度に「鎌ケ谷市企業誘致促進条例」が施行となり、市外企業の誘致のみならず、市内企業による再投資も併せた企業誘致を推進している。

このような中、市内の中小企業・小規模企業者に広く労働生産性向上の機会を提供することから、本計画で対象とする先端設備の種類は中小企業等経営強化法施行規則第7条第1項に定める先端設備等全てとする。

3 先端設備等の導入の促進の内容に関する事項

(1) 対象地域

市内の中小企業・小規模企業者に広く労働生産性向上の機会を提供することから、本計画では対象とする区域について制限は設けないこととする。

(2) 対象業種・事業

市内の中小企業・小規模企業者に広く労働生産性向上の機会を提供することから、本計画では対象とする業種及び事業等について制限は設けないこととする。

4 計画期間

(1) 導入促進基本計画の計画期間

国の同意日から2年間（令和7年4月1日～令和9年3月31日）とする。

(2) 先端設備等導入計画の計画期間

中小企業・小規模企業者が定める先端設備等導入計画の期間は、3年間、4年間または5年間とする。

5 先端設備等の導入の促進に当たって配慮すべき事項

- ・雇用安定に配慮をすることから、人員削減を目的とした取組については、先端設備等導入計画の認定の対象としない。
- ・鎌ケ谷市暴力団排除条例（平成24年鎌ケ谷市条例第2号）第2条各号に掲げる暴力団、暴力団員及び暴力団員等、暴力団等の活動の利益になる行為を行う者又は暴力団等と密接な関係を有する者については、先端設備等導入計画の認定の対象としない。
- ・市税を滞納している者は、先端設備等導入計画の認定の対象としない。